

平成27年度第1回東北地方整備局コンプライアンス・アドバイザー委員会  
議 事 概 要

1. 開催日時： 平成27年 7月 9日（木） 13：30～14：10

2. 開催場所： 東北地方整備局 大会議室

3. 出席委員： 委員長 浦井 義光 弁護士  
委員 内田 貴和 公認会計士・税理士  
委員 飛田 善雄 東北学院大学教授

4. 議 事

- (1) 平成26年度東北地方整備局コンプライアンス報告書（案）について
- (2) 意見交換

5. 各委員からの意見・質問等

【意見】

・業務を行っていく中で、予想外の事態が起こった場合に一人で悶々と悩まないで、他の人に気軽に聞けるような雰囲気が醸成されるような組織づくりに邁進していただきたい。

・コンプライアンスが単なる制度のみではなくて、自然に受け入れてもらえるようにするには、最終的には職場の信頼関係が大事であり、皆様にはこのコンプライアンス活動を通じて、さらに職場内の信頼関係を深めていただければと思う。

・コンプライアンス・ミーティングの実施時期、対象者及び内容の吟味については、今後検討すべき課題である。

また、eラーニングの効果はかなり期待できるものであり、平成22年4月改訂版の「発注事務に関するコンプライアンス・マニュアル」の内容も充実しており、職員の方にとっては非常に参考になると思われる。

さらにセルフチェックシートについて、今後も改訂を続けていくことにより、実施する側においては、職員の方々の意識とか考え方が把握できるし、これによって注意喚起が適確にできるのではないかと思われる。

・DVDの活用についても、今後も引き続き取り組んでいただきたい。

・平成26年度の推進計画における各取組の実施結果については、いずれも良好であり、その効果もあがっているものと思われるので、今後も継続して取り組んでいただきたい。

【質疑応答】

◆Q1 コンプライアンスや倫理に関する体制や規定等の整備が進み、それに多くの時間が割かれることによって、風通しの良い組織づくりを目指しているものとは逆に、職場がギスギスしてきたという印象を持つ職員もいるのではないか。

以前と比べて職場の雰囲気が実際にどのように変わってきたか、担当者の率直なご意見をお伺いしたい。

- ◆ A 1 コンプライアンスの強化により、職場の意識が相当高まっており、職員一人一人にもコンプライアンスが重要であるという認識はかなり浸透してきている。反面、仕事をする上で、一つ一つの判断を極めて慎重にしなければならないという多少のプレッシャーもあると思われる。  
今後も個々のルールは組織全体としてしっかりと守っていかねばならないと考えており、職員一人一人の意識の浸透を図りながら、引き続きコンプライアンスに取り組んでいきたい。
  
- ◆ Q 2 報告書の中に、高知県内で発生した談合事案をドラマ化したDVDをコンプライアンスの教育に用いているとの記載があるが、このドラマ化したDVDに対する職員の評価はどのようなものであったか。
  
- ◆ A 2 従来のDVDは、架空の人物を使った内容になっていたが、今回のDVDは、実際の職場と全く同じような組織の中で演じられていることから、かなり印象度が強いものだったとの評価があると聞いている。
  
- ◆ Q 3 コンプライアンス・インストラクターの方々のスキルアップについては、色々な機会を設けて行われていると思うが、報告書の中に記載のある「ワールドカフェ方式」については、何か指導が行われているのか。
  
- ◆ A 3 整備局及び国土交通大学校において、インストラクター養成セミナー等が行われているが、ワールドカフェ方式の進行スキルを学ぶという内容ではなく、セミナー等で実践した内容を受講者が職場に持ち帰って実施しているという状況である。

## 6. 整備局からの発言

コンプライアンスについては、全国的な事例や地方で実際に起こった事例を職員に周知するとともに、それに基づき議論するなど色々と工夫をしながら進めさせていただいている。

我々の職場は、現場でそれぞれ工夫しながら、定型には無いような、いつも違った形での判断をしながら仕事をするということで、自分で判断する機会の多い職場でもあり、コンプライアンスの充実は非常に重要なことだと考えている。

引き続き、発注者綱紀保持に関するコンプライアンスを充実させていくとともに、今後は職員自体の綱紀の粛正についても併せて議論していきたいと考えており、今後とも皆様方からのご意見を伺いながら進めていきたいと考えているので、ご指導の程よろしくお願ひしたい。